

製品名: CD39 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08381**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	ENTPD1
別名	ENTPD1; CD39; Ectonucleoside triphosphate diphosphohydrolase 1; NTPDase 1; Ecto-ATP diphosphohydrolase 1; Ecto-ATPDase 1; Ecto-ATPase 1; Ecto-apyrase; Lymphoid cell activation antigen; CD39
遺伝子 ID	953.0
SwissProt ID	P49961
免疫原	抗血清はヒト ENTDP1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

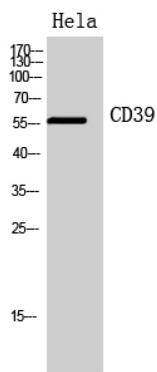
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞外 ATP および ADP を AMP に加水分解する細胞膜タンパク質です。このタンパク質の活性を阻害すると、抗がん効果が期待できます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2015 年 8 月],触媒活性: $\text{ATP} + 2 \text{H}_2\text{O} = \text{AMP} + 2 \text{リン酸}$ 。補因子: カルシウム。補因子: マグネシウム。機能: 神経系において、ATP およびその他のヌクレオチドを加水分解してプリン作動性神経伝達を調節する。また、血小板凝集の予防にも関与している可能性がある。ATP と ADP を同様に加水分解する。PTM: N 末端部分がパルミトイル化されている。PTM: N 末端はブロックされている。類似性: GDA1/CD39 NTPase ファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体; ジスルフィド結合型。組織特異性: 主に活性化リンパ球細胞に発現する。また、内皮組織にも発現する。血管アイソフォームと胎盤アイソフォーム II は胎盤と臍帯静脈の両方に存在するが、胎盤アイソフォーム I は胎盤にのみ存在する。

研究分野

プリン代謝;ピリミジン代謝;

画像データ



CD39 ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。